

事業計画名 樹脂サッシの大型品生産体制の構築

高岡明光化成株式会社



高性能住宅普及で大型化する樹脂サッシの新生産ラインの導入

本事業における成果

- 大型品を生産できるようになった
- 製品の多様化
- 受注対応力の向上

会社データ

創 業	1991年9月3日
代 表	田嶋 嘉治
所 在 地	高岡市戸出栄町50-1
TEL/FAX	TEL:0766-63-4561 FAX:0766-63-4562
E-mail	T-meikou@P1.coralnet.or.jp
資 本 金	1,000万円
従業員数	30人
取扱製品	樹脂サッシ、建築用ガスケット、エクステリア部材、木粉入り樹脂製品

1 会社の概要

1991年9月、明光化成株式会社（大阪府高槻市）の関連会社として、地元有志4人で起業した。押出ラインを3系列設置し、アルミサッシの窓枠とガラスの間にはさむ軟質塩化ビニルの建築用ガスケット生産から事業をスタートさせた。2000年に樹脂サッシの生産を開始。2002年に木粉入り合成樹脂製品の分野に参入し、16年には、全体で12系列の押出ラインを備える事業所に成長した。現在は、樹脂サッシのパー材が売り上げの約8割を占め、エクステリア製品も手掛けている。

「小さくとも真珠の如き価値ある存在たれ」を社是に掲げ、「顧客のニーズに応え、社内・社外の総力を結集し、相互信頼を基盤に製品を通して、豊かな社会環境作りに貢献する」を経営理念としている。「常に良い製品と納期の順守に徹し、会社の声価を高揚する」「社内・社外の総力を結集し、次

代を担う人材を育成する」「長期の展望に立って国内・国外の動向を注視し、経営戦略を展開する」という3つの基本方針に沿って、事業を展開している。

2 補助金事業の内容

樹脂とアルミの複合サッシは、樹脂の熱伝導率がアルミの約1000分の1と低いため、結露が生じにくく、カビやダニの発生を抑える特徴がある。2009年から2014年まで3回にわたって予算措置された省エネ住宅エコポイントが追い風となり、新築住宅やリフォームで採用が広まった。

住宅の耐久性向上や住環境の向上に加え、冷暖房の省エネ効果や防音性による健康面への効果なども期待され、サッシメーカーがこぞって新シリーズの発売を進めている。また、樹脂サッシのもう一つの特徴である、色相や木目などの柄の豊富さも、ユーザーから高い評価を得ている。

この流れの中で、複合サッシの

樹脂とアルミの割合は、従来の樹脂4対アルミ6から、徐々に樹脂の割合が増加。現在では、樹脂7対アルミ3まで樹脂の割合を高めた製品も開発されている。そのため、サッシメーカーから樹脂部分の大型化を求める問い合わせが相次ぐようになり、高断熱・省エネルギーなど高性能で高いデザイン性のサッシを求める時代のニーズと、得意先メーカーの要望に応えるため、大型樹脂サッシの生産が課題となっていた。

しかし、従来から使用している65mm押出機（スクリー1本）では、さらなる大型化は不可能なため、新たに90mm押出機（スクリー2本）を導入しなければならず、本事業を活用して新規の押出ラインを設置した。

新ラインは、90mm押出機と冷却水槽、引取機、切断機に加え、第2金型用真空ポンプとコンプレッサーで構成。従来の65mm押出機では、100mm角の大きさのパー材までしか生産できなかったが、90mm押出機では150mm角程度まで生産できるようになった。

3 補助金事業の成果

これまでできなかった大型のパー材生産が可能になり、取引先メーカーからも好評を得ている。新押出ラインの生産量は、樹脂サッシ



新たに導入された90mm押出機

の全体の約1割を占めるまでになった。まだフル稼働には至っていないため、樹脂サッシに占める割合を2割に高めることを当面の目標としている。

新設住宅着工件数は何とか横ばいを保っているが、将来的に減少傾向が見込まれる。しかし、高性能住宅を求めるニーズは根強く、樹脂サッシの需要はまだ増加傾向にある。この機会を逃さず、親会社を通じた営業で、受注拡大を図っていきたい考えだ。

4 今後の展望

現在は樹脂サッシの需要が好調なため、主力の同分野に生産能力の大半を集中している。

樹脂サッシは、ドイツのメーカーが、寒さが厳しくても省エネで快適

な住環境をつくるために開発したのが始まりで、開口部の断熱基準を厳しく法制化しているヨーロッパやアメリカの国や地域では、オール樹脂サッシが60パーセントを超えるまで普及している。

日本では、アルミと樹脂の複合サッシの導入が、北海道や東北など寒冷地で先行して進み、北陸でも急速に普及している。全国的にはアルミサッシが強く、次いで多いのが複合サッシで、オール樹脂サッシはまだ少ないのが現状だ。しかし、快適な住環境を求めるニーズは高く、樹脂サッシの拡大余地はまだ大であるとみている。

また、これまで蓄積した技術力を生かし、将来的には、建材以外の自動車や家電など産業分野への事業展開も見据えている。



樹脂サッシのパー材



新ラインの引取機



新ラインの切断機



新ラインの冷却水槽